

英、CPI 減速も利上げ期待強い

- ◆英、3月CPIが予想以上に減速も5月利上げ期待は根強い
- ◆英上院がEU離脱関連の修正案を可決し、メイ政権に打撃
- ◆加ドル、原油高・NAFTA再交渉合意期待・7月利上げ思惑で底堅い

予想レンジ

ポンド円 148.50-154.50 円

加ドル円 83.00-87.00 円

4月23日週の展望

今週発表された英経済指標は弱い結果が目立ったことから、イングランド銀行（BOE）による5月利上げ織り込み度はやや低下したものの、依然として利上げに踏み切るとの見方が根強い。本格的な自由貿易協定（FTA）交渉を控え模様眺めムードが強いが、ポンドは利上げ期待を背景に来週も下値は堅いか。カーニーBOE総裁は5月会合である程度の見解の相違が出ると予想していると述べた。英2月ILO失業率（3カ月）は4.2%と、1975年以来の低水準となった。週平均賃金は前年比+2.8%と市場予想の+3.0%に届かなかったが、約3年ぶりの高い伸び率となり、賃金上昇がインフレに追いつかず家計が圧迫される状況を脱する兆しがみえた。BOEは、失業率の低下で賃金の上昇が加速し始めるとしている。ただ、その後発表された3月消費者物価指数（CPI）は前年比で市場予想を下回る+2.5%と、2カ月連続の減速で約1年ぶりの低水準となった。生産者物価指数は前年比+2.4%と市場予想をやや上回ったが、2016年11月以来の低い伸びとなった。労働市場の指標は5月利上げを後押しする結果となった一方、インフレは中銀の予想を上回るペースで減速しており、5月利上げを疑問視する声も出ている。ただし、5月利上げ予想が過半数を占めていることには変わりはない。英・欧州連合（EU）のFTA交渉を控える中、英上院はメイ首相にEU離脱後も関税同盟にとどまるよう求める超党派の修正案を可決し、メイ首相が進めているEU離脱方針の主要な部分に反対を突き付けた。修正案が下院で拒否される可能性はあるが、EU離脱後の関税同盟残留を否定しているメイ政権には打撃だ。また、トウスクEU大統領は英国に対し、EU離脱後に北アイルランドとアイルランドとの間で厳しい審査を伴う国境設置を防ぐための具体策を提案するよう圧力を強めた。この問題が解決できないと、移行期間を含む全ての合意は無効になると警告した。

加ドルは底堅い動きか。カナダ中銀（BOC）は市場予想通りに政策金利を1.25%に据え置いた。インフレ目標を達成するためには緩和策が依然必要で、金利見通しについても慎重であり続けるとした。ただし、物価や賃金上昇圧力に関する慎重な文言を変更し、時間とともに利上げが正当化されるとのスタンスを示した。ポロズBOC総裁も会見で、賃金の伸びとインフレ率上昇を指摘し、今後の緩和策の縮小を確信していると述べた。市場では7月にBOCが追加利上げに踏み切るとみている。69ドル台まで上昇した原油相場と北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉の合意期待も加ドルの支え。関係筋の話では米政権は5月中旬までにNAFTAの妥結を目指していると伝わった。

4月16日週の回顧

ポンドは買いが先行するも、弱いCPIやBOE総裁発言で失速。1.43ドル後半まで2016年6月の国民投票以来の高値を塗り替えたポンドドルは1.41ドル割れ、ポンド円は153円後半から151円近辺まで押し戻された。加ドルはBOCが緩和策継続の必要性を示したことで売りが入るも原油高を支えに底固く、ドル/加ドルは1.26加ドル台で加ドルが下げ渋り、加ドル円は85円前後で小じっかり。（了）